2022年度　外国人留学生選抜　「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画	個々の実力の差を見つけるために、動きのあるポーズ、レインコートがつくる雨の表情、 モデルの風情をどのように自分の中へ汲み取り表現できるのかを重視して出題しました。	持参作品の解説、入試作品のコンセプト、質疑応答について、こちらの意図を 理解し日本語で説明できるかを重視しました。	●
油画	対象の観察力やデッサン力、画材の扱い、構成力などの基礎的な力量を見極める。 配置されたコート掛けや洋服、帽子などのモチーフをどう描くかを見ることによって、 ものの捉え方や発想力、独創性が表現されているかを問うた。	実技試験では、モチーフからなにを感じ取り、表現したか、提出作品については 制作の意図などを聞き、今後の研究への意欲や日本語のコミュニケーション能力 などを確かめ、総合的に判断した。	●
版画	＜デッサン＞ 色彩や質感の異なるモチーフに関して、どのように描き分けるのかが出題の狙いです。 基礎的なデッサン力である描写力、観察力、構成力などを中心に、作者の意図や興味、 テーマに対する取り組みも含め、採点のポイントとして総合的に評価しています。 ・理解力＝出題内容をしっかりと理解しているか ・観察力＝モチーフの造型性を理解し、正しく捉えているか ・描写力＝形、色、立体、空間、質感、細部などを描写する力があるか ・構成力＝モチーフを適切に配置し、バランス良く構成しているか ・テーマ力＝作者がモチーフの何に興味をもち、どのようなテーマをもって取り組んだか ＜コラージュ＞ 色から発想し、それを写真素材にどのように繋げて、展開できるかを出題のねらいに しています。ここでは発想力、写真素材を選択する映像感覚、そして色と写真を 組み合わせて編集する力を主に評価しています。 ・映像感覚＝写真イメージに対してどのようにアプローチしているか ・編集力＝写真を選択し、組み合わせ、編集する力があるか ・構想力＝作品のテーマ、コンセプトを構想する力があるか ・独創性＝独自の視点、感覚をもっているか ・完成度＝コラージュとしての完成度があるか	提出作品やポートフォリオのプレゼンテーションと専任教員との質疑応答の中で、 以下の点をポイントとして評価しています。 （本年度は1名　20分で実施） ・日本語能力＝質問を十分に理解し、的確に返答できるか ・完成度＝作品とともにポートフォリオ自体に完成度があるか ・意欲・積極性＝志望動機は明確であるか、学業や制作に意欲があるか ・プレゼン力＝持参した作品を基に自身の考えを明確に述べられるか、 　　説得力を　もっているか ・計画力＝入学後の研究に展望をもち、その実現に何が必要であるか把握 　　しているか	●
彫刻	デッサンなど技術的修練が必要とされるものと、その場での発想力、 両方をバランスよく見る意図で出題している。 新聞を選んでいるのは、選択肢になるべく広い幅を持たせるため。 社会問題に強く関心を持つ者、ひとつのワードから自由自在に想像力を膨らませる者、 ストーリーを構築する者、複数の観点から総合的に評価をする。 学生が「現在持っている力」も見るが、入学後に「どれだけ伸びるか？」＝自己の関心を いかに広く社会と接続していけるか？が一番の評価基準になる。	・デッサン(実技試験)　作品コンセプトの聞き取り ・基本的な言語/コミュニケーション能力 ・美術以外に関心のあること	●
工芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。 また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような 画面の雰囲気や表現力も期待する。	なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか。 将来の展望等について熱意と説得力のある答えを望む。 同時に、実技試験を経た感想を話してもらうことで、本人の制作についての 考え方や取り組み方を確認したい。 また、面接の受け答えと小論文によって、本学での学業を達成するために 必要な日本語の能力を確認する。	●
グラフィック デザイン	・理解力　問題の把握、理解が正しいか ・伝達力　問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力　問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力　構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性　　デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか	×
プロダクト デザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイル デザイン	・理解力　問題を把握し意図を理解しているか ・観察力　対象に向き合い細部までて丁寧に観察しているか ・描写力　構図、形態、質感などを描写する基礎的な力が備わっているか ・色彩表現力　モチーフの観察から抽出したかたちを中心に、優れた配色がなされ表現 　　できているか ・個性　　出題にたいして積極的に取り組み、自由に発想し独創的に表現している	・授業を理解しコミュニケーションできる日本語能力があるか ・本専攻の特徴を理解し志望理由と留学する意図が明確であるか ・授業への取り組みの熱意、意欲があるか ・持参作品に基礎的造形力、色彩表現力、独創性があるか ・将来にどのようなビジョンをもっているか	●
環境 デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。 形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	本学科の授業を理解できるだけの日本語会話能力があるか。 日本で、また多摩美術大学で学びたい理由がはっきりしているか、 本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。	●
情報デザイン メディア芸術コース	限られた試験時間の中で、その場での発想力や構成力と、基本的な描写力を総合して評価する。 本年度は“手”と“透明アクリルキューブ”の対比(身体と人工物)をどのように表現して いるかが出題のねらいである。この対比に着目したアイディアや構図の斬新さがあるか？ 質感の違いが描き分けられているか？ モチーフとして配布した4cm幅の透明アクリル立方体 のサイズを正確に描かれているか？ アクリルキューブから透過して見える複雑な反射や 歪みなどの表現も評価のポイントにした。	何故メディア芸術コースを選択したのか?入学後にどのような事を学び、 どのような創作をしたいのか?　卒業後に希望している目標など、 明確な自分の意思を持ち、それを言語化して質疑応答が出来るか という点が ポイントとなる。	×
情報デザイン 情報デザインコース	手とモチーフの鉛筆デッサンを通じて下記の評価を行なった。 ・【観察】対象の形や機能を正確に捉え認識できるか ・【明暗】光を捉え陰影を鉛筆で明度として表現できているか ・【質感】モチーフと手の質感の違いを描き分けられているか ・【空間】遠近感を意識して立体感のある画面づくりができているか ・【構成】鑑賞者を意識した構図選びができているか	面接のポイント ・自己アピールなどプレゼンテーション力があるか ・日本語でのコミュニケーション能力があるか ・プレゼンテーションにおいて、作品の制作の意図・過程・結果・価値を 　説明できるか ・入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか ・情報デザインの分野の専門性を理解しているか	×
芸術	日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、 論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。 常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	外国人留学生の存在は、他の学生にとっても大きな刺激になります。 面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、芸術に関する 最低限の知識をもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視　点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	身体表現： 歩き／ジョギング／音楽と一緒に即興的に動く、3つの項目を実施。 身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取り、指示を基にして何らか実践することが できているかを見た。 聞こえてきた音楽を、自分なりの身体的な感覚で受け取る試みができるかどうかを見た。 演劇： 1、キーワードによる言語を用いない短い身体表現で、発想力、同様の条件下での他者との 　　協調性、集団での表現力を見た。 2、テキストに書かれたダイアローグを読む。対話形式の表現能力と感性、 　　表現の幅を見た。 3、テキストに書かれたモノローグを読む。声量や息継ぎなどを確認すると同時に、 　　求められたことに対しての各自なりの 　　対応力を見た。 4、全員で一つのテキストを用いたシーンを創作し発表する。限られた時間の中で 　　どの様な発想をもち、他者と合意形成を成すか、集団創造における 　　コミュニケーション能力を見た。	・自身の国を離れて日本に来て学ぶ動機、また日本の大学の中でも多摩美を 　目指す意志。 ・志望動機と実技試験の感想について。 ・基礎過程の2年間に演劇と舞踊の両方を学ぶことに耐性があるかどうか。 ・必修科目の中に日本語で実施される講義科目があることを承知しているか。	×
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	単に置かれたモチーフを観察し正確にデッサンするだけではありません。基礎的な デッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。 情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を 創出することも出来ます。 今回は、コーヒータイムを連想させるモチーフが出題されています。そこから発想した 個性豊かな表現を期待しています。近年、大胆な構図や独自の発想が増加しています。 しかし素材感を表現できていないもの、雑な描き方の回答は評価が低くなります。 光の捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。	面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。 作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として 制作したものまで幅広いラインナップが望ましいです。 作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に 説明出来ているかを評価の基準としています。 また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。 説明や質疑応答時に、日本語でスムーズに会話が出来るか、 意思疎通が可能な語学力を有しているかも判断します。 この学科への志望動機や目指したい夢・目標が明確かなども重要です。	●

全学科共通小論文
問「地域と芸術」について、あなたの考えを述べなさい。(800字程度) 留学生の場合、それぞれの出身国があり、その地域性があります。 そしていま重要な「持続可能性と芸術」を考えた場合、芸術もその地域にいろいろな意味で根差したものが好まれる傾向が見えはじめています。建築ならばその土地の木を使い、 工芸ならその土地の土を使うなどが、それにあたります。 また直島のベネッセや瀬戸内トリエンナーレなど、巡回展示と異なって、鑑賞者の方がその土地まで出かけ、その地域と触れあいながら作品を見るあり方も目立ってきています。 この新しい地域性の傾向をここでの出題の狙いとしました。